平成25年度マダイ幼魚資源調査結果

【調査日】
平成25年7月10日(水)・・・宗像海域・福岡粕屋海域
平成25年7月12日(金)・・・糸島海域

【調査点数】
宗像海域・・・・・・・・6点
福岡・粕屋地区海域・・・16点(新宮地先8点、奈多地先8点)
糸島海域・・・・・・・・12点(湾口6点、湾内6点)

【調査内容】
一艘ごち網（目合い18～20節）で1回の操業で採取されるジャミ(マダイ幼魚)、キス等について、分布状況および体長測定を実施しました。

【調査結果】
１．ジャミの分布

表1　各海域のジャミ入網数

海域名	平均入網数	最大入網数	最小入網数	前年比	平年比
宗像海域	505尾	1584尾	87尾	129%	118%
福岡粕屋海域	383尾	1216尾	0尾	59%	183%
糸島海域	26尾	137尾	0尾	17%	70%
筑前海平均	279尾	1584尾	0尾	65%	138%

海域別にみますと、宗像海域、次いで福岡粕屋海域で多く、糸島海域では少ない傾向がありました。糸島海域では半数の調査点でジャミが全く取れず、最も多いところでも一網あたり137尾に留まりました。

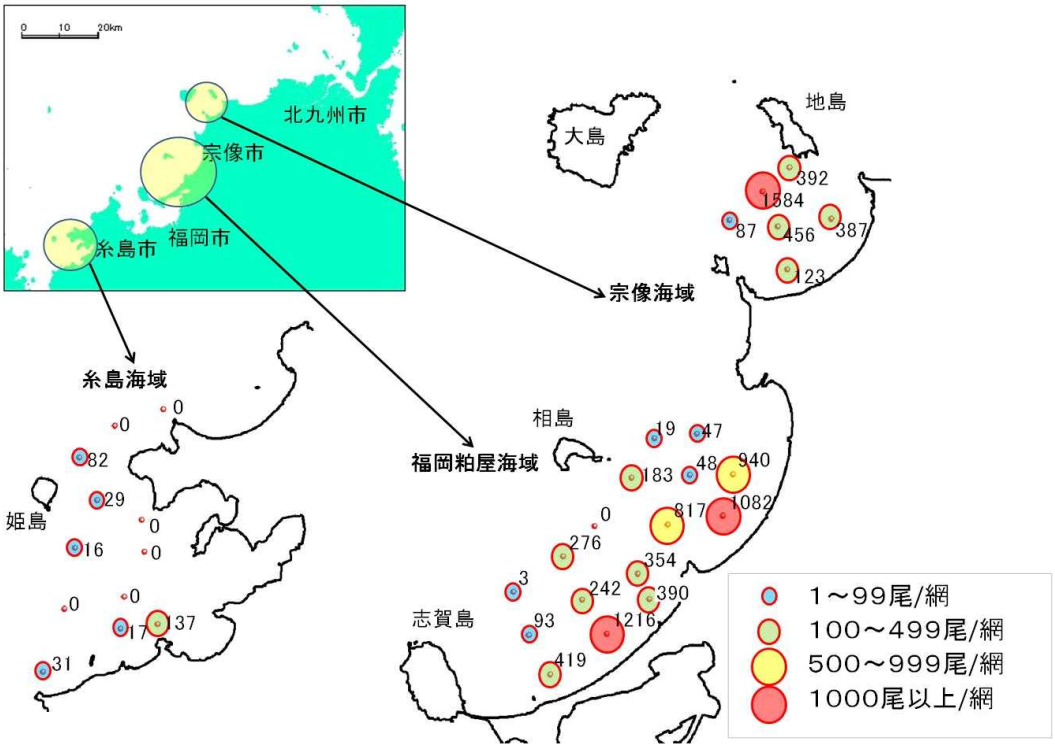

図1　平成25年度ジャミ調査結果

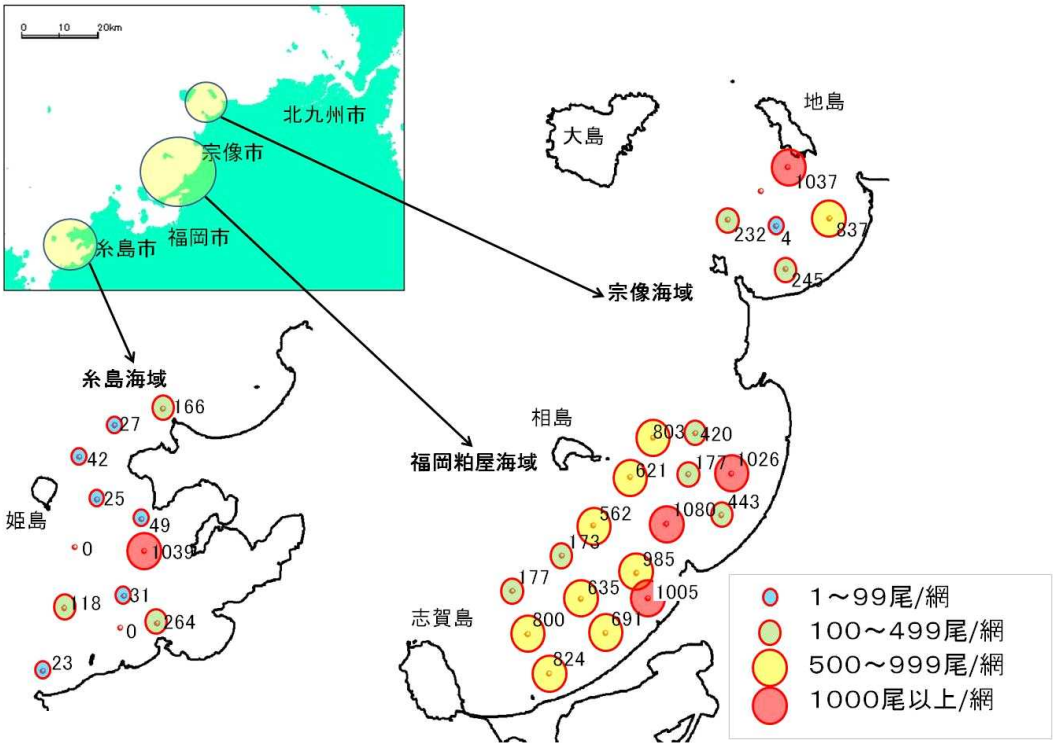

図2　昨年度のジャミ調査結果

２．入網数の年変動

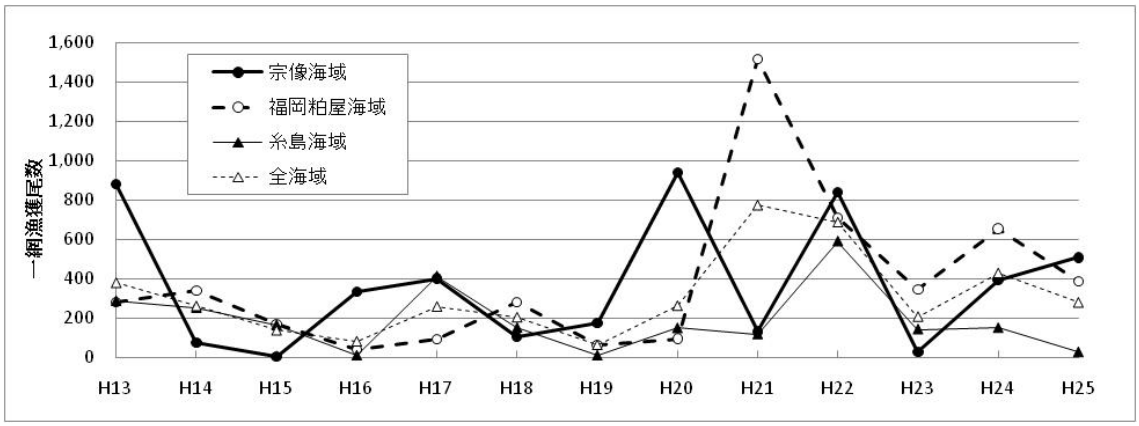

図3　近年の入網数の推移

25年度のジャミの入網数は宗像海域では前年を上回りましたが、福岡粕屋海域、糸島海域では前年を下回っていました。また全海域の平均でも前年をやや下回りました。

３．体長

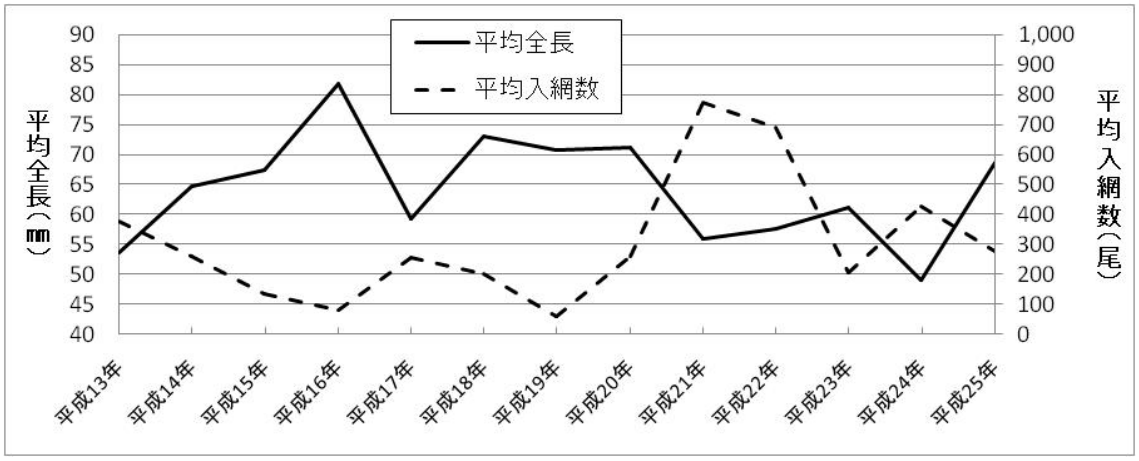

図4　近年の平均体長と平均入網数の推移

平成25年のジャミの平均体長は68.7㎜となり、昨年の49.5㎜を大幅に上回りました。海域別に見ると宗像海域で76.9㎜と最も大きく、糸島海域で61.7㎜と最も小さくなっていました。

また経年変化を見ると、平均体長と平均入網数の間には負の相関が認められ、数がたくさん獲れる年は体長が小さくなる傾向があるようです。

しかし一方で海域間を比べると、最も入網数の多い宗像海域で最も体長が大きく、体長と入網数の間に明確な相関は認められませんでした。

４．今後の見通し

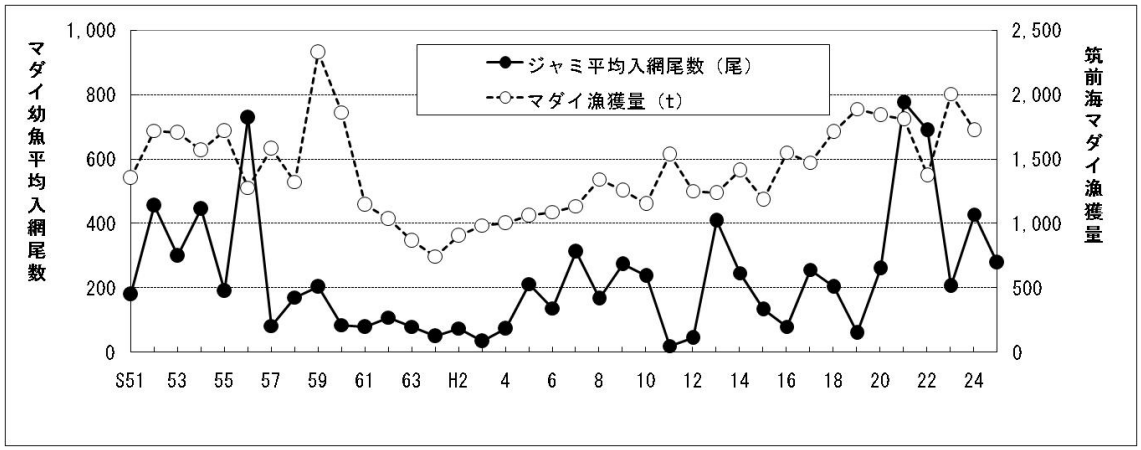

図5　ジャミの数とマダイ漁獲量の推移

最後に、ジャミ調査の結果とマダイ漁獲量の関係について説明します。

ジャミはおよそ2年ないし、3年後には漁獲対象となります。そのため、ジャミが多く獲れた年の2～3年後にはマダイの漁獲量が多くなる傾向があります。

最近では平成21年、22年が非常にジャミの数が多かったため、平成23～25年はマダイ資源が高水準で推移すると思われます。平成23年以降ジャミの発生量がやや減少していますが、それでも平成25年度のジャミ入網量は平年の140％水準を維持しており、急激な資源量の減少は当面ないと考えられます。

参考　本年度と昨年度のキス分布状況

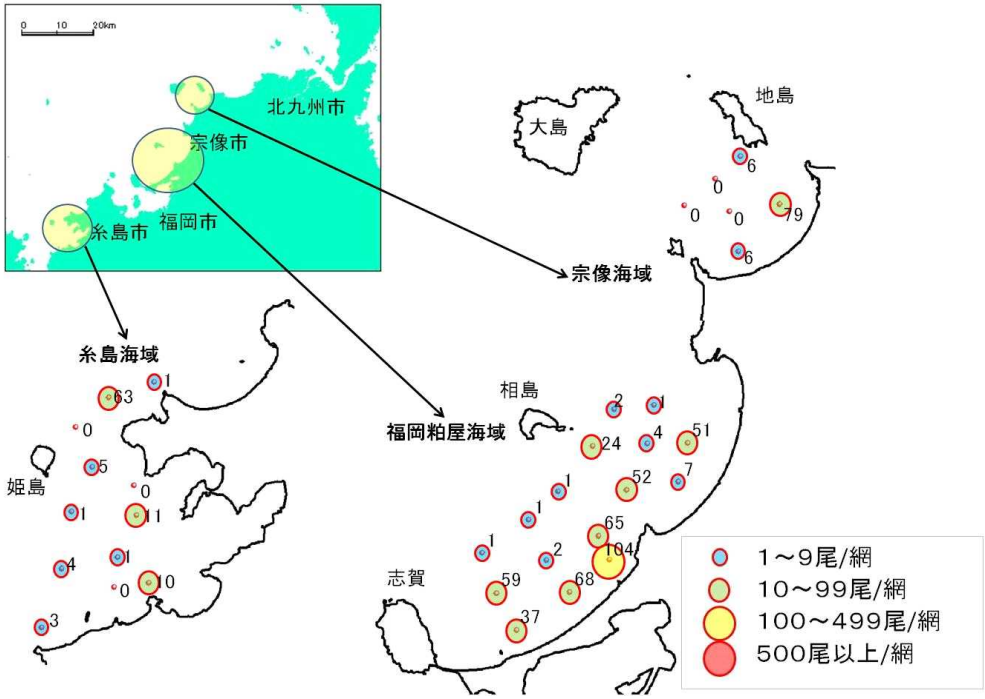

図６　平成24年度　シロギスの入網量

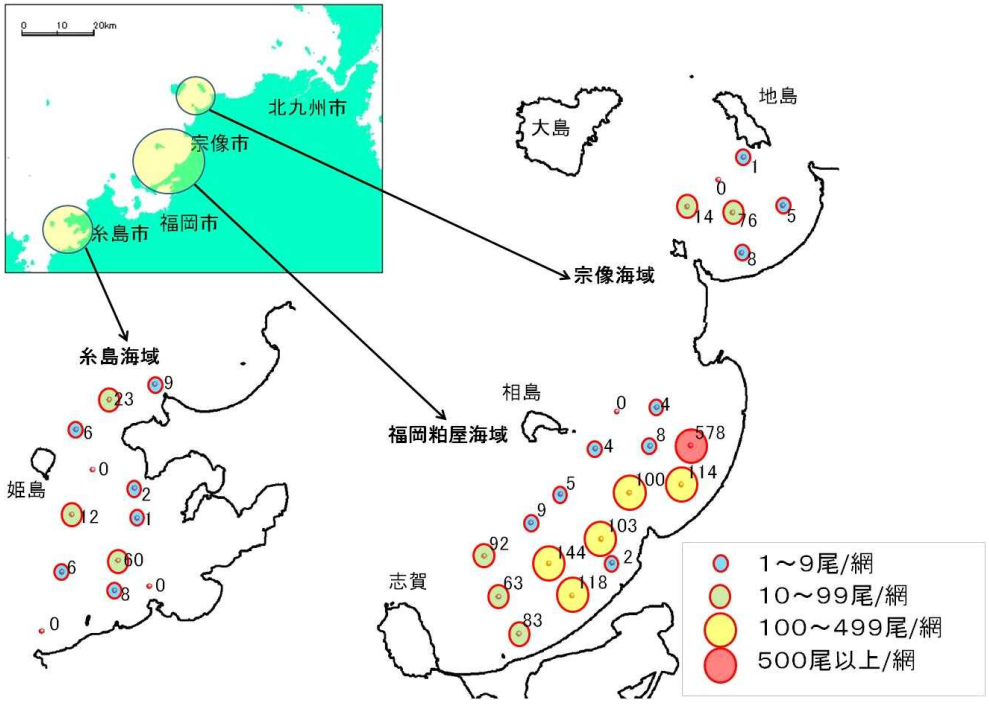

図７　平成25年度　シロギスの入網量

平成24年度に比べ、平成25年度はいずれの海域でもシロギスの入網量が増加しています。特に福岡粕屋海域では昨年の倍以上のシロギスの入網がありました。